

基本方向A「文化創造の基盤づくり」

①「芸術文化を創造する人材、支える人材の育成・支援の充実」

事業名	実績・評価
芸術活動振興事業 助成金	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請件数 一般助成：上期58件／下期146件 特別助成：45件 合計：249件 交付決定件数 一般助成：上期47件（うち中止30件）／下期128件（うち中止8件） 特別助成：25件（うち中止6件） 合計：200件（うち中止44件） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、困難な状況にある大阪の芸術家や文化団体の活動を支援するために、積極的に拡充を行い、かつてない多数の活動を採択し、支援額を増額したことは評価したい。また、それにより新規申請者も増加したことは、この事業の認知度向上になったということであり、この点も評価できる。 一方で、採択したが結果的に、少なくない活動が中止となった。しかしながら準備金を助成したり、また活動を採択することはその事業の存在意義を認めるものともいえるので、活動をエンパワメントしたこととなっただろう。 本年は残念ながら事例報告会が実施されなかった。事例報告会は申請者等の貴重な交流の機会となっていた。コロナ禍の状況を見ながら、オンラインも含め、報告に限らず事前交流等、前例に縛られない交流の機会を作って欲しい。 採択団体側の事業変更等に関する相談をアーツカウンシルと市職員で受けたことは、一種の伴走型支援といえる。今後も機会があれば、事業者からの相談や対話の機会を設け、お金だけではなく、きめ細やかな支援ができることよりよいだろう。 美術ジャンルの申請が増加するなど、多様なジャンルからの申請があることは良い。ただし、美術展については会期中の作品販売については、その他収入として計上してもらうなど、現代の美術展事情に合わせた収支計画の指導をすべきだろう。
咲くやこの花賞 受賞者等支援事業 咲くやこの花賞	<p>【咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「咲くやこの花コレクション」旭堂南龍独演会（R2.11.4～8此花千鳥亭）ほか3プログラム 受賞者のインタビュー記事の発信：5回（予定） <p>【咲くやこの花賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 贈呈式：R3.2.18 大阪市中央公会堂 受賞者：（美術部門：現代美術）小嶋晶（音楽部門：作曲）高木日向子 （演劇・舞踊部門：演出）笠井友仁（大衆芸能：漫才）ミルクボーイ 駒場孝 内海崇 （文芸その他部門：小説）寺地はるな <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、困難な状況に直面している芸術家や文化団体にとって、表現活動が表彰されることは非常に勇気づけられるものであり、また受賞者がた業界全体も盛り上がるため、さくやこの花賞及び、調整を重ねて受賞者支援事業を実施したことは大きく評価したい。 受賞者インタビューなども丁寧に発行されており評価したい。受賞者の表現に対する思いを市民に伝えるとともに、今後この受賞者らの活動を注目する各ジャンルの専門家にとってのアピールにもなり、新しい活躍の場にもつながる足掛かりにもなる。 受賞者支援事業の美術部門は、このアーティストの個性的なメディアアートの特徴を捉えたライブイベントとなり、若い世代の市民の来場が促されるとともに、アートの専門家も注目するものとなった。今後も、各ジャンルの特性を活かした場所選びや見せ方等のプロデュースを積極的に行うとよいだろう。（例えば美術部門においては、美術館やアートセンターとの連携、文芸においては書店との連携等）
大阪文化賞 大阪文化祭賞	<p>【大阪文化賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受賞者：公益財団法人山本能楽堂（能楽・文化振興） 授賞式：R3.3.26 シティプラザ大阪 <p>【大阪文化祭賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受賞者 【第1部門】竹本綴太夫：「初春文楽公演『傾城反魂香』【土佐将監閑居の段】」の成果 【第2部門】工藤俊作：「プロジェクトKUTO-10」の制作活動 【第3部門】堺シティオペラ：「第34回定期公演『アイダ』」の舞台成果 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における事業の継続のためのあらゆる営為は普段以上の努力を要したものとして慰労、評価に値する。同時に、通常運営ができない状況に対応したことにより、事業の根本的な意義を再確認し、これまでのやり方を別の目で見直し未来への新たな備えを検討する機会になったことと思われる。 大阪文化賞の一般推薦の数の増加は賞を維持する目的にもかなうことであり喜ばしい。年度ごとの増減が激しく、とった策とその手応えや結果との因果関係を測るのは簡単ではないが、継続してデータが残されてきたことで分析の基盤と尺度などを次年度以降に残してゆければと思う。 大阪文化祭賞について、大阪市立芸術創造館立ち上げ時にスタッフとして関わっていた工藤俊作さんが受賞されたことは、大阪市内において演劇分野のキャリア形成が芸術創造館をスタート地点に行われたという実績である。大阪で活動する芸術家や団体に、継続的に活動することで評価されるという事例を示したことであり、大阪の文化芸術活動の活性化に確実に繋がっているといえる。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、新しい表現方法が多数生まれている。部門や審査については、すぐにはなくともよいが、今後、時代にあった体制等も関係者で意見交換をはじめめるものよだろう。

<p>三好達治賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延期となっていた贈呈式およびポスター展は新型コロナの流行が続き、開催を断念。 ・令和3年1月に記念誌を発行、関係者等169名、全国図書館86館、全国文学館324館、市内各地域図書館に発送、配架依頼し、全国発信を行った。（※市内図書館の配架は4月以降） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贈呈式やポスター展が開催できなかったのは、華やかさに欠け残念だった。 ・記念誌を作成し、市内図書館や全国文学館に配架できたのはすばらしい。記念誌を作成することで事業が形として残り、関係者は折に触れ本事業を思い出すことができ、末長い波及効果が見込まれる。 ・記念誌を送付した文学館からも反応があったことから、市には文学館がないが、文学関係事業の案内などを送ることで全国の文学館との交流のきっかけとすることができるのではないかと。
<p>織田作之助賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贈呈式 R3.3.3 綿業会館 ・受賞者及び受賞作品 織田作之助賞：温 又柔氏「魯肉飯のさえすり」 織田作之助青春賞：三浦 育真氏「夜明珠」 奨励賞：土岐 咲楽氏「木香」 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>若年層を対象とした公募賞の応募が増加したことは喜ばしいことで、今後に期待したい。織田作之助は大阪の作家として全国で知られており、この顕彰は、大阪の文学の魅力を発信している。贈呈式のほか、各構成員の特色を活かしたセミナー、講演会等、PRのための新しいアイデアも検討していくのが望ましい。</p>
<p>舞台鑑賞会 (能・狂言・上方芸能)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能狂言 「こどもと楽しむ能狂言」R3.2.7 大槻能楽堂：計203人 「初心者のための能狂言」R3.2.21 大槻能楽堂：計213人 ・上方芸能 「初心者のためのはじめての寄席 繁盛亭NIGHT」 R3.3.20 (集計中)人 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」R3.3.20,27,28 計(集計中)人 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における事業の継続のためのあらゆる営為は普段以上の努力を要したものとして慰労、評価に値する。同時に、通常運営ができない状況に対応したことにより、事業の根本的な意義を再確認し、これまでのやり方を別の目で見直し未来への新たな備えを検討する機会になったことと思われる。 ・予定事業のうち、歌舞伎鑑賞授業以外は実施している。語りが重要な役割を果たす上演芸術の鑑賞会については、現場のノウハウも蓄積されたが、行政の側にも複合的な情報の提供、指針の作成、現場との調整などが求められたことと思う。これらの経験を、関係者で情報共有しておくとういだろう。 ・子ども対象事業について、コロナ禍により例年の体験ワークショップが行えず、満足度につながらなかったようだったとのこと。コロナ禍において新たな体験ワークショップを提案している文化団体もあり、そこには芸術文化の教育普及の知識があると考えられる。今後の子ども対象事業については、芸術文化の教育普及コーディネーター等の参画を促すことも一案である。
<p>舞台鑑賞会 (演劇)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界でいちばんやかましい音」 R3.3.26～28 阿倍野区民センター ・来場者数合計：(集計中)人 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観客ターゲットを「親子」「小学生」と明確にしたことで、事業目的に対して効果が期待できる作品を選定することができたように感じる。 ・実施会場を事業者が選定することになったことで、演劇公演を鑑賞するに相応しい会場で実施することに繋がった。 ・大阪を拠点に活躍している演劇人が事業に参画していることを評価したい。ベテランの演出家、中堅の劇作家が協働する機会となった点や、出演者が幅広い世代から起用されている点など、異なる世代の交流の場ともなっていたように感じる。 ・今回、記者会見を開催したり、これまでになかった広報活動が実施されていることを評価したい。
<p>芸術創造館 ショーケース事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募団体数 47団体 選定団体数 10団体 ・ワークショップ参加者数 延べ16名 ・記録映像配信 3月26日～ <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあり、活動の機会を失った団体に発表の場を設けられたことを高く評価する。 ・47団体の幅広い表現手法の団体から応募があり、バランスよく10団体を選定したことを評価したい。このような団体を選定できたことは、インキュベーション施設として利用者と真摯に向き合ってきた施設だから実現できたと想像できる。 ・出演団体に出演料を支払い、仕事としての意識を求めるようにして欲しい。チケットを多く売る団体とチケットをあまり売らない団体での差別化が必要ということであれば、1枚あたりのチケット取扱手数料(割合)を決めた上で団体に配分することも可能なように思う。 ・ワークショップの目的を観客の創出とするのか、団体の育成とするのか、方針が明確でなかったように感じる。団体を対象に、自らの魅力ある活動を言語化することを学ぶ機会としてもいいのではないかと。また、次の活動に繋げていくために、プロデューサー養成講座の必要性を感じる。

②「芸術文化を将来へ継承発展させる青少年の育成」

事業名	実績・評価
中学生が参加するコンサート	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめましてオーケストラ」（H31.3.30 ザ・シンフォニーホール） ・参加中学生数：325人（予定） ・来場者数：1000人（予定） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても13校より325名の参加が得られていることは評価できる。事前指導やシンフォニーホールでの公演が実現することで、音楽的素養を積み、思春期における豊かな感性を育てていくことが期待できる。 また、大阪市の担当者が事前学校訪問指導に立ち会い、プロの指導により中学生の演奏が短時間で変化したことや、コミュニケーションを生き生きと図る様子についての報告を受けた（3月17日）。このように行政担当者が事業成果を自ら体感されたことは文化政策の実質化の上でも重要なことと考える。今後も現場に立ち会う機会を確保していただけることを願っている。 ・今後の文化創造の基盤づくり及び青少年育成を考慮して、コロナの影響が長期化した場合でも実施可能な訪問指導プログラムの開発を期待したい（飛沫・接触感染防止対策を講じた少人数でのプログラム等）。対策についての考え方は今後も変化していくと考えられるが、その時々々の情報や知見を共有の上、オーケストラや学校とのコミュニケーションが図られ、本事業の実施が継続していくことを望みたい。

③「芸術家等が活動に取り組みやすい環境の整備」

事業名	実績・評価
芸術創造館管理運営	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇練習室稼働率63.4% 音楽練習室56.5%（1月末現在） ・自主事業 新型コロナウイルス感染症の影響によりすべて中止 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度よりマーケットサウンディングなど次期指定管理者公募に向けて取り組んできたが、1団体だけの応募であったことが残念である。コロナ禍の影響もあるかと思うが、事業者にとってメリットに感じられないことが応募に繋がっていないのではないかと。今一度、応募に繋がらなかった原因を分析し、複数の団体が応募された上で指定管理者を選定できるように努めていただきたい。 ・新型コロナ対策を適切に行なった上で安全・安心に施設を利用できるように取り組んだことを評価する。 ・利用料金制を導入していることから、新型コロナによる減収について、管理運営に大きな影響を与える。減収について、補填措置を行ったことは評価できる。 ・中長期の施設改修計画について検討し、計画的に施設の改修に取り組んで欲しい。また、改修にあたっては、各管理所管課と連携・協力体制を築いて欲しい。 ・「施設を活用した自主事業の実施」について、インキュベーション機能を有する施設の強みを活かした、ワークショップの講師派遣なども検討して欲しい。

④「貴重な文化資源の保護・保存・継承」

事業名	実績・評価
文楽を中心とした古典芸能振興事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文楽公演「中之島文楽」 ※関係者の新型コロナウイルス感染により中止 ・ミニ公演・文楽に関するWEBフリーペーパーでの情報発信など 約5,000人 ・YouTube動画 アクセス数 約17,000人 ・来場者へのアンケート結果：「次は文楽劇場で文楽を鑑賞したい」と回答した人数（集計中）% <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での新たな試みとして、文楽人形が文楽劇場での観劇マナーを案内する独自映像をyoutubeチャンネルで公開するなど意欲的な取り組みがなされた。子どもから大人まで誰にでも親しみやすくインパクトのある番組に仕上がっており、webでの視聴数も多く得られ、文楽のアピールにつながったことは高く評価できる。また、芸芸員とのQ&Aをホームページで公開したり、アイドルの発信による広報効果など、従来には見られなかった多様なPR活動により一定の成果が得られている。今後も多様な層に向けて、様々な媒体を活用しての情報発信や働きかけが行われることを期待したい。 ・新たに開館した「こども本の森中之島」の来場者は地域の赤ちゃん連れが多いとのことで、文楽劇場への来場が困難な若いファミリーへの働きかけ（アウトリーチ）が可能となりそうである。文楽イベントの定期的な開催により、文楽が日常生活の中にあるという気運の醸成、ひいては文楽ファンの醸成へとつながっていくと良いと思う。また、日本橋エリアを拠点とする文楽の、中之島エリアへの活動地域の拡大という点でも意義が高い。 ・冊子の制作も継続して実施されており、親しみやすいサイズ感と読みやすい内容に仕上がっている。表紙に人形の写真が掲載されており、昨年号に比べて一見してイメージが伝わるものになっている。

<p>舞台鑑賞会 <small>中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽</small></p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文楽鑑賞教室」※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため文楽劇場が公演中止（申込時点 3,239人） ・「夏休み親子文楽」※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため文楽劇場が公演中止 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により公演や募集が中止とされたことは致し方ないと言え、それまでの募集活動を通して文楽の広報活動がなされた点や申込者を集めた点は評価できる。欲を言えば、今後コロナの影響が長期化した際の次善策があると良いと思われる。 <p>また、若年層の鑑賞者拡大のために、学校教員の文楽への興味関心や理解を深めることは最重要課題といえる中で、大阪市下の中学校教員の自主研修組織により、鑑賞教育を充実・進化させようとする動きがあることは喜ばしいといえる。今後、特に中学生の鑑賞機会を増やしていきたいとのことで、中学生の目線に立ったプログラムの開発などが望まれる。文楽協会などの協力も得ながら、大阪ならではの取り組みとして継続、実現され、多くの中学生が文楽に親しむ機会を提供されることを期待したい。</p>
<p>中央公会堂管理運営</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会室等の利用率 36.8%（2月末時点） ・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数 1件 ・感染症対策を講じながらガイドツアーの実施、レストランとの連携に加えクリエイティブアイランド中之島への参画など中之島エリア一体の賑わいに貢献 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中での文化施設運営は、困難であったらう中、出来る限り市民に開かれるよう管理運営に努めたことは評価したい。 ・貴重な近代建築保存のために、空調設備等の修繕を計画通り実施したことは評価したい。 ・中之島エリアでの文化的連携として、クリエイティブアイランドへの参画、クルーズ船とのコラボレーション事業、話題性のあるマスキングテープ展示開催を実現したことは、中央公会堂自身の魅力を市民に知らせるものであり、評価したい。 ・文化事業以外の貸館利用について、収益性のある事業の受け入れは、運営面において重要だが、それによって、市民の文化活動が制限されることがないよう、適切なルールづくりを用意してはどうだろうか。

⑤「芸術文化活動を支える寄附文化の醸成」

事業名	実績・評価
<p>芸術・文化団体 サポート事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度実施分 対象団体：23団体 寄付金額：8,522千円（R2.12月末まで） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付件数及び寄付額が前年度より大きく増加したとのこと。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、困難な状況に直面している文化団体支援に、本事業が活用されたことの表れであり、一部の前倒し追加交付等の迅速な対応も含め評価したい。 ・また、市内の百貨店のアートチャリティーオークションが、この事業への寄付を前提に行われていることは「民間の力で芸術文化を支える寄附文化の醸成」へのアプローチの1つであり、公民との共創事例であり好ましい。 ・「子どもの芸術鑑賞を主目的とした非営利活動法人」等も登録団体となるべきではないかと考える。アーツカウンシルと相談の上、登録情報が届いていない団体に仕組みを説明することも必要だろう。 ・パンフレットにある団体名称だけでは各団体の活動がわからないものも少なくない。団体の特徴を紹介する短い文章等をパンフレットに掲載してみてもどうか。 ・この事業の仕組みや登録団体を紹介する動画を作成し無料公開し、今後の推進につなげてはどうか。仕組みのところでは団体や寄付者に実際に登場してもらいドラマ仕立てにするなど、事業関係者の顔や声がかかるものがよいだろう。

基本方向B「都市のための文化」

①「大阪が誇る上方伝統芸能を活用した魅力発信」

事業名	実績・評価
<p>伝統芸能を活用した 大阪の魅力開発促進 事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <p>新型コロナウイルス感染症流行の影響により実施せず</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>—</p>

②「芸術文化の魅力、観光資源及び経済の活性化に活用」

事業名	実績・評価
アジアン映画祭	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアン映画祭（開催期間：R2.3.5～3.20） 上映作品数：70作品（23の国と地域の作品） ・開催会場：梅田ブルク7、ABCホール、シネ・リーブル梅田 オンライン ・オンライン上映やオンラインシンポジウムを開催 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、映画文化への情熱を失わず、関係者が工夫を重ね、オンライン上映等、新たな可能性を掴むことができていると評価でき、価値のある取り組みである。 ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭が今年度で終了し、大阪アジアン映画祭への期待が高まると想定される。本映画祭はやめることなく継続実施してほしい。 ・関西の次世代の映画人材を育む取り組みであることも評価したい。例えば、神戸女学院大学文学部英文学科の学生が社会問題を題材にした映画に日本語字幕を制作、大阪芸術大学の卒業制作のノミネートなどである。今後、本映画祭の様々な取組みによってアジアの人たちを受け入れるだけでなく、大阪から映像文化の人材が羽ばたけるきっかけになり、それにより大阪市のシビックプライドの向上に寄与することとなるだろう。

③「都市全体を活用した芸術文化活動の展開」

事業名	実績・評価
大阪クラシック	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間：令和2.9.13～9.19 ・主な会場：大阪市中央公会堂・フェスティバルホール・Zepp Namba及びオンライン配信 ・出演楽団：大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団 Osaka Shion Wind Orchestra ・公演数：49公演 ・来場者数（合計）：82,711人（YouTube視聴者数含む） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来は記念すべき第15回を迎える年だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、無料公演をオンライン配信（事前収録、配信）に切り替えるなどの対応策がとられた。中止とせずに、音楽公演を成立させるための機動的措置が図られたが、そこには大阪市担当者や演奏団体（大フィル）担当者の多大な尽力や関係者間の連携があり高く評価できる。 ・オンライン配信により、居住地域を問わず、期間中に何度でも鑑賞していただけることにつながった。また海外からも視聴者を得られ、「大阪クラシック」を多様な層に認識していただくきっかけとなった。 ・また、博物館や美術館などロケ地での収録を通して、大阪における様々な文化施設を知ってもらえるきっかけになり、観光地としての大阪をアピールする取り組みにも繋がった。 ・大阪市担当者からは、協賛の取り付けが年々厳しくなっており、協賛のメリットを感じてもらいにくい現状について報告いただいた。ただ、協賛金の醸出のほか、会場提供や人材、技術の提供など、さまざまな形で関係構築が図られていることも確認できており、引き続き「まちづくり」や地域の魅力発信などをキーワードに連携を図る可能性は多く残されている。 ・今後、たとえコロナの影響が長期化した場合でも実現可能な対面プログラム（参加対象や人数を絞るなど）の立案・実施を期待している。

基本方向C「社会のための文化」

②「地域の特色ある芸術文化活動への取り組み・支援」

事業名	実績・評価
こども本の森中之島運営事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営にかかる満足度98% ・クリエイティブアイランド中之島への参画 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、文化施設運営が難しい中、工夫して安全に運営をしていることは評価したい。 ・クリエイティブアイランドへの参画は、施設間ネットワークを持つことで、多彩な分野との連携や、専門知識の共有などが可能であり、評価できる。今後は、例えば、同じ図書館機能を持つ中之島図書館との連携で大人の読書活動との連携、国立国際美術館の子ども向け芸術教育活動との連携などあれば、よりよいだろう。 ・寄附金獲得と連携する会員制度創設の準備を行っていることも、継続的な運営のための必要であり評価できる。 ・子ども対象であるが、建築愛好者の注目もあびており、多面的な活動が可能であることも留意しておくことよいだろう。 ・大阪市事業（姉妹都市事業や、大阪クラシック、大阪アジアン映画祭等）との連携も可能といえる。 ・今後は、周辺が歩行者空間化し、外で本を読む光景も見られることとなるだろう。可能性がある文化施設である。引き続きの運営を計画的にかつ、共創的に行ってほしい。

<p>地域文化事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淀川区『「1千人の第九」コンサート』ほか1区で開催 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接本事業で助成していなくても、何らかの派生により、各区で芸術活動や芸術に携わる人材が育っていると感じている。今年度から事業のフィードバックのため、アンケート調査を実施したことは評価できる。アンケート結果等を踏まえ、各事業の交流などさらなるステップアップにつながる機会を検討してはどうか。
<p>文学碑記念の集い 文学碑維持管理</p>	<p>【文学碑記念の集い事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症流行の影響により中止 <p>【文学碑維持管理事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿倍野区「伊東静雄」碑ほか1件の清掃 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>文学碑は、多くの文学作品や作家を育ててきた大阪ならではの資産といえ、本事業は市民に分かりやすく普及することができる。歴史を継承しながら、テーマやゲストなど、時代に合わせた内容で新旧のバランスをとりながら取り組んでほしい。</p>
<p>クラシック音楽 普及促進事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にしなりクラシック～ダンス・ダンス・ダンス！～」 (R3.1.23 大阪フィルハーモニー会館 来場者数(合計)234人) ・大阪フィルハーモニー会館 市民利用割合14%(2月末現在) <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で感染防止対策を図りながら公演を実現されたことを評価したい。チケットの売れ行きも好評だったと聞き、本事業が定着しつつあることや地域住民から音楽公演が求められていることが把握できる。 ・公演の有無にかかわらず、地域に大阪フィルハーモニーの活動拠点(大フィル会館)があることを効果的に広報し、西成区民に地域への誇りと愛着、そしてオーケストラへの親しみを感じてもらえると良い。そのためにも、区との連携やホームページ、「区民だより」の活用などが期待される。
<p>現代芸術振興事業 (プレーカープロジェクト)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年事業 旧今宮小学校「作業場」・「西成・子どもオーケストラ」 ・ラウンドテーブル「アート×場づくり」開催 ・地域コーディネーターの発掘育成など <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の中、緊急事態宣言解除後早々の6月から活動を再開し、感染症対策にも留意しながら旧今宮小学校での活動を定期的実施できたことは評価に値する。 ・ここ数年、地域コーディネーターの発掘・育成に取り組んでいたが、その成果があまり具体的に見えない状況が続いていた。今年度は、今宮工科高校の教諭への働きかけから生徒が活動に参加することになり、その後自発的に活動に関わるという事例が生まれたことは、継続性を予感させる若者の参画、地元教育機関との連携という点において、非常に大きな収穫だったと言えるだろう。 ・区民祭をはじめ各種催しの中止により発表の機会を失った、地域の中学・高校の吹奏楽部や踊りのチームに、発表の機会を提供するなどの新たな連携も実現した。地域に根差して事業を継続していることの成果として高く評価できる。 ・本事業は美術のプロジェクトであるが、作品そのものよりも制作のプロセスや社会や日常生活への波及効果に重点が置かれているので、今年度のように市担当職員の現場での丁寧なコミュニケーションの積み重ねが、事業成果の可視化に大きく寄与する。今後も行政側と運営側の協働意識が持続されることを期待する。 ・今年度開催予定だった、川村文化芸術振興財団のソーシャリーエンゲージドアート支援事業は、新型コロナウイルスの影響により来年度に実施されることとなったが、全国的にも注目を集めるアートプロジェクト助成事業であるので、来年度の活動には大いに期待したい。